

令和2年度 府立乙訓高等学校学校経営計画

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点目標
<p>1. 知・徳・体の調和のある人間の育成に努め、高いレベルでの「文武両道」をめざす。</p> <p>2. 本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成するとともに、令和4年度から移行の新学習指導要領への対応を進める。また、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と心豊かにたくましく生きる人間の育成に努める。</p>	<p>1 地域・保護者に信頼され、期待される学校としての教育活動を推進するために、落ち着いた学習、部活動、学校行事に励める環境づくりに努め「生徒・保護者・地域に信頼され、愛される学校」づくりをより一層推進する。</p> <p>2 「自学自習の気風醸成」、「高い目的意識とその継続（粘り強い学習）」を推進し、これまでの進路結果を分析した上で、適切な進路指導を組織的・計画的に行い、生徒一人一人が目標とする進路の実現を図る。</p> <p>3 本校生の学力実態や進路希望状況に即した授業の在り方を各教科で検討し、「学力の伸張が実感できる」授業をさらに充実させ、より高い目標に向かう意欲を高める。 ICTの効果的な活用方法について研究・研修を進め、よりよい教育活動の推進に向けた工夫改善をおこなう。</p> <p>4 学校ホームページやPTA お知らせメールなどを活用し、日々の教育活動の即時発信に努め、地域に関われた学校づくりをより一層推進する。</p>	<p>■ 特色化に向けた学校改革の推進</p> <p>1 スポーツ健康科学科の学習内容と事業等について、設置10年の取組の成果を検証し、より洗練された内容となるよう、その体系化を進める。</p> <p>2 普通科（文系コース、理系コース）における効果的な学習を展開するとともに、将来の進路を見据えた学習内容・行事等を計画・実践する。また、プロジェクト会議を活用し、今後の魅力ある普通科の在り方等について、検討を進める。</p> <p>3 高い希望進路実現に向けた学力向上とその定着を図る。</p> <p>(1) 高大連携・高大接続を効果的に活用した進路指導を行うとともに、大学入学共通テストの導入などの高大接続改革への対応を進める。</p> <p>(2) 土曜活用や学習合宿、補習等の在り方を検討するとともに、学習室(自習室)の有効活用を推進し、学習習慣の定着を図る。</p> <p>(3) 各種模試等の結果分析を行い、生徒個々はもとより、クラス等の学習集団の学力傾向を把握し、生徒が現在有する学力を一層伸長させるための指導方針を講ずる。</p> <p>(4) ICTを活用した授業をさらに発展させ、「生徒に学力をつける授業」を構築するとともに、「生徒自らが活用する学習」の充実を図る。</p> <p>(5) 定期考査前に成績不振生徒に対する「基礎学力対策講座」を設け、評定「1」の生徒を減少させる取組を継続する。</p> <p>4 家庭との緊密な連携を図るとともに、校内連携体制の充実に努め、「生徒・保護者・地域から信頼される学校」づくりを一層推進する。</p> <p>(1) 基本的な生活習慣を確立するための指導を推進する。</p> <p>(2) 規範意識の高揚に係る生徒指導を推進する。</p> <p>(3) 幅広く部活動の充実を図り、学校の活性化を推進する。</p> <p>(4) ボランティアへの参画等、地域社会にも貢献できる生徒会活動を推進する。</p> <p>(5) 「おとくにクラブ」の活動を通じて、地域との連携を推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	分掌	評価		成果と課題
1 組織運営	組織的な校務運営の推進	<p>(1) 授業研究週間、研修会、教科主任会議、教務部からの情報発信等を通して授業改善を進める。</p> <p>(2) 校内ネットワークの活用により教務部からの情報発信の方法を工夫し、各分掌・教科からの伝達内容や生徒の欠席状況等の情報の共有化を進める。</p> <p>(3) 校務システムの円滑な運用を推進し、成績、出欠管理、指導要録、調査書等、職員が能率よく業務を遂行できる環境を整備する。さらに、校務システムのより幅広い活用を図る。</p> <p>(4) 時間割編成及び管理、定期考査運営、生徒在籍管理、科目登録・講座編成、教科書届出、指導要録管理、基礎学力補充、学習指導資料(成績資料、シラバス等)の作成、入学者選抜などの業務を適切に遂行する。</p>	教務		B	<p>(1) 年度前半は臨時休業期間が長く、研修や会議を十分に開催できなかったが、後半には教科を超えた授業研究や令和4年度に向けた検討を促進することができた。</p> <p>(2) 校務システムの運用を円滑に行うことができ、成績処理等の業務の効率化に寄与した。</p> <p>(3) 校内website「教務の窓」を運営するなど、情報共有の利便性を図った。</p> <p>(4) 具体的方策(4)に示したすべての業務や取り組みが生徒の学力向上と高校生活の充実につながったことと、丁寧な対応ができた。特に、コロナ禍の状況下での困難な事態に柔軟に対応できた。</p>
	生徒募集対策	<p>(1) 昨年度入学者選抜における普通科の大幅な定員割れを踏まえ、生徒募集の方法について見直しを行う。地元中学生の回帰を図るとともに、幅広い生徒募集の充実努める。</p> <p>(2) 本校が目指す学校像や魅力を学校説明会、中学校訪問、教育機関訪問等を通じて正しく伝えて理解を図り、乙訓で鍛える、乙訓で創るというスローガンを宣伝し、乙訓高校に行って未来を変えようとする生徒を募集・確保する。</p> <p>(3) 普通科(文系コース理系コース)の設置目標を確認しながらその魅力を打ち出し、常に学習意識を持った生徒を確保する。</p> <p>(3) スポーツ健康科学科は、設置 10 年の取り組みの成果をこまめな中学校訪問や学校説明会で伝え、学科の目的に沿うとともに乙訓高校の中核を担える生徒の確保に努める。</p>	総務企画		B	<p>(1) コロナの影響により実施形態・日程とも例年と比較して大きな変更を余儀なくされた。さらに昨年度募集における大きな定員割れからの回復という最重要課題もあり、前例のない手探りでの募集活動となった。そんな中で教職員全員が危機意識を持った総力体制のおかげで、結果的には昨年比で普通科・スポーツ健康科学科とも大幅な志望者増となった。</p> <p>(2) 特に、学校説明会においては、コロナ対策が課される中、乙訓高校の持つ大きな魅力発信のため、形式的でなく先生方それぞれの感性を最大限発揮され、乙訓での学びの魅力を多くの中学生や保護者に伝えることができた。</p>

		(4)全教職員が一致したイメージを持って生徒募集に当たれるように努める。				
2 学習指導	基礎学力対策、進路実現	<p>(1)新学習指導要領や共通テストを視野に入れながら、令和3年度入学生教育課程を編成すると共に、新学習指導要領に対応した令和4年度入学生教育課程案を完成する。</p> <p>(2)成績不振生徒対象に定期考査前に「放課後学習講座」を効果的に実施し、成績不振者を減少させ、中途退学者、原級留置者の根絶を目指す。</p> <p>(3)今年度用「シラバス」を学科別に作成し、全生徒・教職員に配布し、学習指導及び生徒の計画的な学習に資する。また、年度内に令和3年度用の編集を終える。</p> <p>(4)全生徒を対象に生活実態調査を実施する。また、その結果を分析し、生徒の実態を把握することにより、より効果的な指導に結びつける。</p> <p>(5)学科やコースの特色に応じた総合的な探究の時間、学校設定科目、高大連携授業の活用等により、主体的な深い学びを実現し、基礎学力の定着及び難関大学入試等にも対応できる発展的学力の育成を図る。</p>	教務	B	B	<p>(1)令和3年度入学生教育課程について、今年度入学生のものに変更を加えず編成した。また、1年後半期からのコース変更においては、希望者の進路希望や事情に配慮しながら、適切に実施できた。令和4年度教育課程は、各教科や全体での協議を経て決定し、予備調査提出を終えた。</p> <p>(2)「シラバス」は学年・学科別に冊子として編集し、全生徒に配布することができた。</p> <p>(3)定期考査前の放課後学習講座は課題や補充内容の充実を図り、対象生徒を精選して実施した。生徒の学習への意識の向上と成績不振者数の減少に寄与している。</p> <p>(4)生活実態調査の結果を分析し、学習・生活指導の改善の一助とした。</p> <p>(5)年度途中で転学、退学及び休学した生徒数は減少傾向が続いている。個々の事例を学校としての課題を映すものととらえ、指導の改善につなげたい。</p>
		<p>(1)高大連携・高大接続を効果的に活用した進路指導を行うとともに、大学入学共通テストや総合型選抜入試への対応を推進する。</p> <p>(2)学年部との連携のもと土曜活用や学習合宿、進学補習のあり方を検討するとともに学習室（自習室）の有効活用を推進し、学習習慣の定着をはかる。</p> <p>(3)学年部との連携のもと進路希望調査及び個別面談に基づく的確な進路指導を推進する。</p> <p>(4)各種模擬試験の結果分析を進め、学習集団の学力傾向を把握し生徒が</p>	進路指導	B	B	<p>(1)新型コロナウイルス感染症のため高大連携・高大接続事業は実施できなかったが、2年生は12月に「分野別進路説明会」を1年生は3月に「学問別進路説明会」を実施した。</p> <p>(2)学習合宿について今年度は実施できなかった。短い期間であったが長期休業中の進学補習を実施した。</p> <p>(3)4月に1・2・3年生を対象に10月に1・2年生を対象に進路希望調査を実施し、生徒の進路希望を把握した。</p> <p>(4)各種模擬試験の結果分析につとめ、生徒の学力を把握した。</p>

		<p>現在有する学力を一層伸長させるための取り組みを推進する。</p> <p>(5) 大学入学共通テスト及び総合型選抜入試に対応するための研修を行い、学校全体としての取り組みを推進する。</p>				(5) 進路指導部だよりを通して、大学入学共通テストや総合型選抜についての情報共有を図った。
3 進路指導	進路目標の明確化	<p>(1) 第1学年においては社会とのつながりを意識させ、将来のキャリア形成を見すえ、「主体的・対話的で深い学び」となる進路指導を展開する。</p> <p>(2) 第2学年においては進路目標の明確化及びそのための具体的取り組みを促す指導を推進する。</p> <p>(3) 第3学年においては進路希望に応じたきめ細かい説明会を実施し、個に応じた指導と最後まで諦めない指導を進める。</p>	進路指導	B		<p>(1) 1年生で計画した探求的学習はLHRで実施した。</p> <p>(2) 2年生を対象に2月に進路別説明会を実施した。</p> <p>(3) 3年生を対象に休校期間中にオンラインで総合型選抜説明会、小論文説明会を実施した他、模擬面接説明会看護医療系説明会など各種説明会を実施した。</p>
	学力向上への取組	<p>(1) 教科との連携のもと進路実現に向けた進学補習及び学習合宿を展開する。</p> <p>(2) 学習室の有効活用すすめ、生徒の自学自習を支援する。</p>	進路指導	B	B	<p>(1) 3年生を対象に平常補習、1・2・3年生を対象に長期休業中に進学補習を実施した。</p> <p>(2) 学習室を開設し、生徒の利用を奨励した。</p>
	学年部との連携強化	<p>(1) 進路指導担当者会議をはじめ、学年部と常に連絡をとりつつ、生徒の状況を的確に把握し、最新の情報に基づく進路指導を展開する。特に第3学年については年4回の進路検討会を実施し、希望進路の実現を図る。</p> <p>(2) 学外の各種説明会に積極的に参加し、進路指導に係る情報を共有する取り組みを進める。</p> <p>(3) 各種受験システムの活用をはじめ、各種模擬試験の結果に基づく学力分析を通して的確な進路指導を推進する。</p>	進路指導	B		<p>(1) 3年生を対象に4回の進路検討会を実施した。</p> <p>(2) コロナ禍のためオンラインでの各種研修会に参加し、情報共有を図った。</p> <p>(3) 各種模試結果分析を情報共有した。</p>
4 生徒指導	生徒会活動の充実	<p>(1) 毎週の定例会議で話し合うことを習慣づけ、学校生活をよりよいものにしていけるよう、全校生徒の代表としての自覚ある活動を促す。</p> <p>(2) 一つ一つの取組の意義目的を押さえながら、自ら考えて動く生徒会の育成に努める。</p> <p>(3) 見通しを持ち、自主的に各種行事の企画・運営ができるよう指導する。</p>	生徒指導	B	B	<p>(1) 定例で会議を開き、会長が中心となって話し合うことができた。</p> <p>(2) 各行事等では、コロナ禍の中できる範囲内で最大限の事ができた。また、生徒たち自身で取り組み方を考えるなど、自ら考える力が育ちつつある。</p> <p>(3) 交流の広場では、例年通りの交流はできなかったが、DVD作成や展示等で新たな活動に取り組むことが</p>

	(4)地域でのボランティア活動、「交流のひろば」の取組など、地域社会の一員としての活動を促す。			できた。
基本的生活習慣の確立	(1)授業規律を遵守させる。 (2)各分掌と協力し、登校時における遅刻者（数）の減少に努める。 (3)生活規律（特に頭髪、制服の着こなし、スマートフォン等のネットモラル）を遵守させる。スマートフォンの使い方については、再度課題を確認し、対策を講じる。 (4)挨拶の励行とその場に合った礼儀を身につけさせる	生徒指導	B	(1)授業規律はある程度守られているが、無気力な生徒の居眠りがあり、今後も授業規律を遵守させるとともに、自ら学ぶ姿勢を育む必要がある。 (2)登校時の遅刻者は前年度に比べて減っているが、休校期間があったことを加味すると増加傾向であった。定期的な遅刻指導の徹底を行い、生徒の意識を高める必要がある。 (3)頭髪の加工を行った生徒が若干名いたため、改善するように指導した。スマートフォンについては、使用可能時間や項目を示し、その中である程度ルールを守っていた。SNS上に個人情報や載せるなどの事案があり、引き続き指導する必要がある。 (4)挨拶等の礼儀は定着した。
部活動の活性化	(1)部活動の入部率・定着率を向上させる。 (2)重点運動部を中心に全国・近畿レベルの競技会での入賞者数を増加させる。 (3)キャプテン会議を定期的で開催し、部活動の意義を浸透させ、学校生活の規律やマナーの向上を図る。	生徒指導	B	(1)部活動の入部率は昨年度と変わらないが、入部した生徒の部活への定着率が低く、その点が課題である。 (2)今年度は大半の全国大会が中止となった。 (3)キャプテン会議を1ヶ月に1回開催し、部活動の意義を浸透させ、学校生活の規律やマナーの向上を図った。
問題行動の未然防止	(1)日々の生徒観察や教職員間の情報共有を充実させ、問題行動の未然防止に努める。 (2)学校生活のみならず、あらゆる場面において柔軟かつ的確な判断力や態度を育成するなど、生徒自身の自己指導能力の向上を図る。	生徒指導	B	(1)毎朝の登校指導から各生徒の基本的生活習慣の乱れをチェックし、毎週の部会議で共有し、部長会議等で情報提供し、学校組織で指導することができた。 (2)今年度はコロナ禍の中で生徒会役員の生徒たちを中心に精力的に取り組めた。今後更なる生徒自身の自治的な力を育成していきたい。
安全指導	(1)登下校時の安全指導を中心に自転車の乗車マナー向上に努める。	生徒指導	B	(1)毎朝の登校指導を中心に、毎学期行った交通安全指導週間を通して

		(2)雨天時における自転車通学には雨合羽着用を徹底する。 (3)自転車のイヤホン装着運転の厳禁を徹底する。			マナーの向上に努めたが、登下校中の事故が数件発生した。又、近隣からの苦情もあり、下校指導も行った。 (2)雨天時の雨合羽着用は定着した。 (3)校門付近ではイヤホン装着運転は概ね見受けられなかった。
	人権教育	(1)あらゆる教育活動の場面を人権活動・国際理解の場と位置づけ、一人一人を大切にした教育の推進を図る。 (2)各学年の課題に応じた人権学習を行うとともに、3年間を見通した人権学習計画を確立する。2年生については研修旅行の事前学習と関連づけた内容で実施する。 (3)家庭、地域社会、関係諸機関との連携を密にした指導を展開する。	生徒指導	B	(1)人権教育会議を中心に各学年の意見を聞きながら3年間を見通した計画を立て、実施することができた。 (2)各学年での人権学習が全て行うことができなかった。大きな人権侵害やいじめに該当する事象はなかった。 (3)府高人研だけでなく地元地域の会議などにもできる限り参加し、情報を共有することで体系的な指導を展開できた。
5健康安全	健康に関する知識・意識の高揚	(1)各種健康診断を計画に沿って実施する。 (2)生徒の実態に応じた保健活動（講演会、保健委員会活動等）を実施し、生徒自らが自身の健康の保持増進を図ることができるようにする。 (3)心理面や発達課題のある生徒の指導を関係教職員等（担任・保護者・SC・教科担当者・部活動顧問）及び関係機関と連携を図り効果的に行う。 (4)発達に課題のある生徒の理解を深めるための研修会を実施する。 (5)新型コロナウイルス感染防止を積極的に実施する。	保健	B	(1)本年度は二学期からの実施で慌たなかったが、計画通りに各種健康診断を実施できた。来年度の身体計測は、密を避けるためのホームルームごとの移動を実施したい。 (2)保健委員会は、広報活動・啓発活動・文化祭の取り組みを行った。 (3)教育相談会議では、各学年・SC・関係諸機関と連絡を取りながら対応してきた。 (4)教職員向けに人権研修で特別支援教育に関する研修会を1回実施した。 (5)新型コロナウイルス感染防止について、その時々における最善策を実施した。
	学習環境の美化整備	(1)日常清掃・定期大掃除・外庭に花壇を設置し、その整備を行う。 (2)美化委員及び教職員で組織的、重点的な清掃を行い。経年劣化が進む校舎を美化する。	保健	B	(1)日常清掃・定期大掃除を計画通り実施した。外庭の花壇の整備は進んだ。 (2)必要に応じて、美化委員や校内美化に取り組んだ。 (3)学校薬剤師と養護教諭が協力して、学校環境検査や、校舎内外の安全点検に取り組んだ。教室環境は欄間

		(3)環境検査を学校薬剤師の協力を得て計画的に実施し、その結果に基づいて教室内の二酸化炭素濃度の逡減など教育環境を整備する。			換気のおかげで基準値1500ppm以内であった。	
6 図書館経営	図書館の円滑な運営と図書館教育、視聴覚教育の充実	(1)綿密な思考力と豊かな感性を育て、高いレベルでの「文武両道」を目指すため、学校全体として読書する生徒を育てる環境を整える。 (2)授業・行事・特別活動において、各教科・分掌との連携を深める。 (3)蔵書の充実を図ると共に、公共図書館や他校の図書館等と連携し、必要な資料を貸借することで、教育活動を支え、生徒の教養の育成を促す資料の充実を図る。 (4)視聴覚機器の充実を図る。 (5)コンピュータによる書籍管理、貸出業務を実施する。	図書	B	(1)コロナ禍による図書館内での密回避への配慮や授業日数の減少によって、授業における教科の図書館利用は例年よりやや減少した。 (2)1学年のSHR読書(2・3学期)や2学年のLHR読書(1学期)を実施した。 (3)府立図書館との連携を密に行い、授業の調べ学習等に必要な資料を充実させた。 (4)コンピュータによる書籍管理、貸出業務が行えた。コロナ禍により長期間行うことができなかった蔵書点検も年度末に実施する計画である。	
	図書委員会の充実	(1)委員会活動を活発なものにし、読書週間等の行事の充実を図る。 (2)図書館見学会・図書委員会交流会等、他校との交流や他校の取組から学べる機会に積極的参加する。	図書	B	(5)年度末に、図書館内にコンピュータを設置することができた。新年度に向けて、生徒が蔵書検索等で利用できる環境を整えることができた。 (6)インターネットで自宅から蔵書検索ができるように準備を行っている。 (7)図書委員会活動は、短い準備期間など限られた条件の中で、比較的活発に取り組むことができた。 (8)今年度は、図書委員会の他校との交流がなく、本の買い出しも1回しか行えなかった。他校の取り組みから刺激を受けたり、委員会でのリーダーとしての自覚を育てたりすることが難しかった。	
7 地域連携	学校情報の発信	(1)生徒募集活動の充実を見据え、学校の魅力発信を目的として、ホームページの見やすさやタイムリーな更新など積極的な情報提供を行う。 (2)家庭との連携をさらに緊密にするために、メール配信システムを有効に活用し、その一助とする。 (3)行事や体育系活動のみならず、文化系諸活動、図書館の魅力、普通科の活	総務企画	B	B	(1)ホームページの全面リニューアルと公式Instagramを開設し、学校の魅力発信に取り組んだ。それに合わせて広報委員会を立ち上げ、定期的な情報更新を目指したが、あまり機能しなかった。学校全体として更新を促すシステムを充実させていく。 (2)家庭への連絡については、コロナ対策として府教委からclassiの提供

		<p>動をきめ細かく発信する。</p> <p>(4) 地域と密着した活動(開放型地域スポーツクラブ等の活動)やボランティア活動なども積極的に発信していく。</p>				(今年度限り)があり、生徒・保護者に対する緊急連絡手段として大いに活用された。来年度以降も同様のシステム構築が必要である。
	ボランティア活動の実施	<p>(1) ボランティア活動に関する広報を行い、多くの生徒の自発的な参加を促す。</p> <p>(2) 地域社会の一員として貢献できるよう、生徒会として地域のボランティア活動などに取り組む。</p>	生徒指導	B		<p>(1) 生徒会を中心に、平和フォーラムへの協力、「交流のひろば」への参加ができた。</p> <p>(2) 例年行われている長岡京市緑のサポーターとして清掃活動などを実施することができなかった。</p>
8 スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学科充実に向けた取組の推進	<p>(1) 専門科目(「スポーツ概論」、「スポーツ総合演習」)により、スポーツ科学、健康科学に対する興味を深め、成果としての研究発表の質をさらに向上させる。</p> <p>(2) 高い希望進路の実現に向けた学力向上・定着を図る。</p> <p>(3) 競技力向上を図り、重点種目にとどまらず、多くの種目で全国大会参加者を増加させる。</p> <p>(4) 地域住民に対してスポーツの楽しさ、スポーツの実践による体力づくり、健康づくりの大切さを知ってもらう継続的な活動を行う。</p>	スポーツ健康科学	B	B	<p>(1) 例年と比較して回数は減ったものの、リモートによる高大・産学連携授業を実施し、スポーツや健康科学への興味を深めることができた。</p> <p>(2) 外部講師を招いた放課後学習講座を(2・3年生)実施した。</p> <p>(3) 全国高校総体は中止となったものの、全国選抜大会にはバドミントン、フェンシング部が出場権を獲得。活躍が期待できる。</p> <p>(4) おとくにクラブを含め、地域に貢献するスポーツ活動を実施することができた。(スポーツフェスティバルは中止)</p>
9 校務事務	生徒の福利厚生	<p>(1) 修学支援の適切な運用を図る。</p> <p>(2) 諸費収納事務の円滑な運用を図る。</p> <p>(3) 諸証明等発行事務の円滑な運用を図る。</p>	事務	B	B	<p>(1) 様々な修学支援策について、今年度はClassiを活用し保護者に直接情報を届けることができたことは成果である。</p> <p>(2) 経済情勢の悪化による影響もあったが、保護者の協力により目的は達成できた。</p> <p>(3) 業務改善による省力化を含めて、生徒に利する対応を確保できたと考えている。</p>
	財産、施設・設備、物品管理	<p>(1) 校舎・施設等の適正な維持管理に努める。</p> <p>(2) 学習環境の更なる充実を図る。</p> <p>(3) 特色化に向け必要物品の充実を図る。</p>	事務	B		<p>(1) 校舎建替から10年を経過し施設の傷みが目立ち始めている。厳しい予算状況のなか、今年度は新型コロナウイルス対策と近隣住民の安心安全も目的にした施設整備を実施した。</p>

		(4)感染症予防・対策のための必要物品の充実を図る。				(2)学校休業期間のオンライン授業、あるいは校内のWi-Fi環境等ウイズコロナの時代に必要な新しい学習環境を整える必要がある。府全体のインフラ整備を含めての課題である。 (3)本校の特色である専門学科教育に必要な備品についても(1)と同様に老朽化が進んでいる。今年度はその中のいくつかについて更新することができたが、今後も引き続き更新・拡充を進めていく必要がある。 (4)ウイズコロナの時代の生徒の安心安全な学校生活を確保するため、必要資材を供給することができた。
	個人情報保護	(1)セキュリティを考慮しつつ、利用しやすいネットワーク環境を一層充実させる。 (2)職員室、準備室における管理区域（生徒・部外者立ち入り禁止区域）の徹底を図る。	ネットワーク担当	B		(1)コロナ禍における学習保障と授業改善のためのICT活用の推進のための校内体制づくりが重要である。 (2)生徒1人1台の実現が間近に迫り、校内のWifi環境の整備が急務である。
10 危機管理	防犯・防火	(1)危険をいち早く発見して、事件・事故の発生を未然に防ぐための指導を行う。 (2)事件・事故が発生した時は適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑える。 (3)学校防火・防災計画の立案と適切な避難訓練を実施する。	生徒指導	B	B	(1)常日頃から教職員の危機管理能力を更に高めていく必要がある。 (2)教職員連絡網等で常日頃から迅速に対応できる組織力を高めていく必要がある。 (3)今年度は避難訓練を実施できなかった。

A：達成できている。 B：ほぼ達成できている。 C：あまり達成できていない。 D：ほとんど達成できていない。

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍で想定外のことが続いた一年であったが、大会や行事等が中止になったことを全てマイナスとせず、進路実現など前向きに取り組んだことが、難関大学の合格などの良い結果につながったのではないかと。 • 学習時間をしっかり確保すれば、より高い希望進路の実現につながる。部活動の指導においても、生徒の学習時間をいかに保障するかは、とても大事な視点であると思う。 • 部活動の時間を減らしてもすべての生徒が勉強に向かうとは限らない。学習に対して消極的な生徒には、積極的に声をかけるなど、やはり学校全体の雰囲気在学习に向かっていくことが大切ではないか。 • コロナ禍で不安を感じる生徒も増えているのではないかと。生徒・保護者のアンケート結果からも、生徒が相談しやすい雰囲気を高めていく必要があるように思われる。 • 今後も世の中での感染状況によっては、出席できない状況が生じるかもしれない、いかなる状況でも学習を保障できるように、ICT を活用した授業などにも積極的に取り組んでいただければよいと思う。
------------------------	---

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 部活動と学習のバランスを保ち、学習習慣の定着を図るとともに、進路実現に向けて明確な目標を持たせる。 • 日常的に悩みや相談がしやすい環境づくりや、個別面談、カウンセリングなど教育相談機能の充実を図る。 • 普通科における魅力ある教育活動を推進し、探究的な学びの視点を大切にした授業改善を図る。 • 「スマートスクール事業」等で整備された機器を活用し、ICT を活用した充実した集団学習や班別学習を実施する。
----------------------	--